せいふう

大阪消防清風会会報

(第 10 号)

発行
大阪消防清風会
大阪市西区西長堀北通1-12
大阪市消防局内
TEL 531－0601
発行人 飯田 博

第8回大阪消防清風会総会

大島市長・石川助役の出席で盛大に開催!!

第八回大阪消防清風会総会が、都島区網島町の桜宮会館、第二部懇談会は太閤園で大島大阪市長、石川大阪市助役の出席を得て盛大に開催された。

去る、七月二十二日(月)第八回大阪消防清風会総会が、都島区網島町の桜宮会館において、第二部の懇談会は、太閤園で会員一九五名の参加を得て盛大に開催された。

定刻の午後二時過ぎ、桜宮会館の会議室において、青木常務理事の「只今から第八回大阪消防清風会総会を開会します。」と言う開会宣言で総会が始じまり、まず最初に消防物故者の御霊に対して出席者全員が心から黙とうを捧げたのち、飯田会長から「今年も元気に再会できたことは喜ばしいことです。」とのあいさつがあり、続いて来賓を代表して大阪市連合防火協力会の奥村常務理事から祝辞が述べられた。

引き続いて、飯田会長が議長を務め、報告事項に入った。報告事項については五月十五日の理事会において慎重に審議し、満場一致で議了された昭和四十八年度事業結果及び、歳入歳出報告、役員の改選(理事会において全員留任が決定)、昭和四十九年度事業及び、歳入歳出予算について事務局から報告され、続いて児玉監事から会計監査報告がなされ、すべての報告事項が終り、最後に氏原大阪市消防局長のあいさつで総会を滞りなく終了し、第二部の懇談会に移った。

懇談会は、桜宮会館の南隣り、大閤園のゴールデンホールに場所を移し、大島市長、石川助役のご出席を得て華やかに繰広げられた。市長、助役が揃って清風会総会にご出席されたのは、今回が初じめてで、これも市長、助役ともに消防行政に深いご理解をいただいているあらわれと思われる。

青木常務理事の司会で始じまった懇談会では、飯田会長、大島市長のあいさつがあり、続いて石川助役の音頭で乾杯が行なわれ懇談に入った。

参加者全員が、各テーブルに集い、美食美酒に舌鼓を打ち、互いに高齢を労り薄くなった頭髪をながめながら、共に過した現役時代の想い出に、又各人の現況や家族のことなどに話題の華をさかせ尽きぬ思いに予定時間をはるかに超過して府下消防長連絡会を代表して井上豊中市消防長の発声で万才が三唱され来年も又元気に再会することを約しながら散会した。

(写真説明)
上 懇談会で会員に久しくあいさつされる大島大阪市長
下 総会で事務局の報告事項に聞き入る会員

鶴見消防署新設

去る、七月二十二日から、大阪市行政区再編成により旧城東区が、城東区と鶴見区に分区されたのに伴ない、鶴見区茨田諸口町六五七の一に鶴見消防署が新設された。

鶴見消防署は、今津、茨田各出張所を城東消防署から受け入れ、造田陸明署長以下八十八名で、消防車四台、救急車一台でもって鶴見区内の消防業務を担当する管内状況は、大阪市の最東部に位置し、周囲には、守口、門真、大東、東大阪の各市と隣接し、鶴見緑地を中心として面積八km²、人口八万人である。

なお同署の開設により市内の消防署は二十二署となった。

東住吉消防署移転

旧東住吉区が、平野区と東住吉区に分区されたのと旧庁舎が計画道路にかかるため新庁舎を、東住吉区田辺本町六―四七に建設中であったが、十月一日完工し業務を開始した。

管内は、平野消防署が新設されるまでの間従来通り東住吉区と平野区の二行政区(旧東住吉区)を管轄する。

!!第三回全国消防救助技術大会開催!!

(財)全国消防協会主催の第三回全国消防救助技術大会が去る九月十八日横浜市の神奈川県立保土ケ谷公園一帯で開催された。近畿地区支部から九一名(大阪市二九名)の選手が出場し、日頃鍛えた実技を披露し、それぞれ入賞するなど優秀な成績を収めた。

叙勲に輝やく人々

次の方々が、生存者叙勲を授章されました。心からお喜び申し上げますとともに、皆様方にお知らせいたします。

昭和四十八年十一月三日付

勲六等旭日章
元大阪市消防司令長
稲盛　弘　氏(73)
城東区野江東之町四―九五
近　況
健康管理についてはたえず留意されている関係で健康に恵まれ、現在、自宅で園芸などをされ毎日をたのしく過されています。

昭和四十九年四月二十九日付

勲六等旭日章
元和泉市消防長
小沢喜平氏(70)
堺市北田出井町三二の三
近　況
現在、奥さんと二人暮らしで健康状態はすこぶる良好で、近くの公園を散歩されたり、お孫さん達と会われるのをたのしみに過されています。

昭和四十九年十一月三日付

勲六等瑞宝章
元大阪市消防司令長
豊田　武　氏(73)
阿倍野区北畠一―一の五〇
近　況
健康状態は極めて良好で余暇をみて、自宅で大畠文英先生について日本画を習われて、市立美術館に作品を展示されるなど毎日をたのしく過されています。

勲六等瑞宝章
元大阪市消防司令長
岡本繁太郎氏(65)
平野区喜連東一―二の三五
近　況
現在、日赤奉仕団長や青少年指導員の相談役などをされ健康で毎日をすごされています。

勲六等旭日章
元大阪市消防司令長
櫛崎重一氏(72)
西成区玉出東一―七の三
近　況
個人で幸和商事と言う会社を経営されているかたわら、娯楽として囲碁を毎日たのしんで過されています。

勲六等瑞宝章
元大阪市消防司令長
森本末吉氏(66)
鶴見区放出東三―六の十二
近　況
現在ある会社の嘱託として勤務されるかたわら孫の相手などをされ、健康管理に専念されています。

新役員

顧問　小川鍛(京都市)
〃　大塚弥三郎(奈良県)
〃　赤井次郎(東住吉区)
〃　畑中良一(枚方市)
〃　大原明義(泉大津市)
〃　清水孝正(旭区)
〃　宇野田泰(寝屋川市)
〃　大西孝一(門真市)
〃　藤岡庄三郎(都島区)
〃　山本稀一(岸和田市)
〃　田万侃(阿倍野区)
〃　竹内敏一(門真市)
名誉会長　氏原岩雄(大阪市消防局長)
相談役　堅田輝正(大阪市消防局総務部長)
〃　恩田一則(〃予防部長)
〃　赤松貞亮(〃警防部長)
会長　飯田博(高石市)
副会長　高松弥三郎(堺市)
〃　奥野利秋(生野区)
常務理事　青木永造(住吉区)
理事　浜瀬信夫(平野区)　岡田勇(東住吉区)
広岡広(西区)　首藤司(福島区)
目黒寅之助(南区)　相川徳次郎(天王寺区)
大原篤(阿倍野区)　森本守夫(住吉区)
東野数雄(住吉区)　櫛崎重一(西成区)
古謝宏栄(西成区)　山田千鶴子(東淀川区)
長船達雄(東淀川区)　森留夫(旭区)
佐々木応挙(旭区)　松下太郎(茨木市)
石川繁美(茨木市)　酒元常治(高槻市)
星田九一(高槻市)　川井清治郎(吹田市)
水原常雄(吹田市)　亀井紋平(池田市)
原田卓二(豊中市)　岡田正治(枚方市)
田端新吾(枚方市)　石田義英(寝屋川市)
今西義昌(枚方市)　浜田義一(守口市)
宮辻市松(大東市)　石田才一(東大阪市)
工藤千代治(八尾市)　古沢幸太郎(羽曳野市)
山形一雄(東大阪市)　黒本勝夫(松原市)
広本十四三(松原市)　久保忠雄(堺市)
青木三郎(富田林市)　赤坂儔(岸和田市)
玉川久子(堺市)　上田幸四郎(奈良市)
樋口花子(京都市)　椿井春重(奈良県)
遠田薫(奈良市)　川本歳雄(奈良県)
竹田潔(奈良県)　岩浅友一(伊丹市)
和田準雄(奈良県)　岩井寿九郎(熊本県)
監事　岩崎延雄(島本町)
〃　児玉敏義(藤井寺市)

転宅随想

大塚彌三郎（奈良県）

私が消防局を退職して早くも十年の歳月が流れようとしている。

消防局は第二の故郷の様に感じ用事の有る無しに不拘訪れている私には以外に早い十年に思えてならない。

消防在職三十八年に加え今の消防機器検定十年を加えると五十年に垂んとする殆んど一生を消防関係で暮らすことになる。

望めば遥かなる彼方だが来て見れば早い五十年と只驚くばかりである。

去る四月に生駒山の東矢田丘陵の麓に居を移し愈々吾が転宅記録にも終止符を打ったのではないかと思っているが、この約五十年間にどれ程転宅したのか又その有様の今昔を偲ぶのも一考と筆をとってみた。吾が転宅歴を記憶にある限り拾ってみると実に二十六回もある。なんと二年に一回の転宅で自分ながら驚きの外はない。併し転宅と云っても座り机に行李一個の独身時代からトラック二台でも尚足らぬ世帯盛りまで様々で流石に独身時代は動きが早く十年間に十回と移り替っている。併し家の苦労など思い出になく転勤があれば二、三日で下宿先は決る有様でその頃その気で住宅街を歩けば一筋に一二ケ所は下宿の張紙が見られる程でその町の風景が今でも懐かしく思い出される。これに比べれば今日の住宅難は益々深刻で家賃に敷金からむづかしい契約事項と諸条件の錯綜する中で転勤転宅する諸君には同情が湧く。

併し戦前は管轄内居住が規則で強要され今日の様な遠地通勤が認められなかったのは一寸窮屈であった。只有様の今昔を偲ぶのも一考と筆をとってみた。吾が転宅歴を記憶にある限り拾ってみると実に二十六回もある。なんと二年に一回の転宅で自分ながら驚きの外はない。併し転宅と云っても座り机に行李一個の独身時代からトラック二台でも尚足らぬ世帯盛りまで様々で流石に独身時代は動きが早く十年間に十回と移り替っている。併し家の苦労など思い出になく転勤があれば二、三日で下宿先は決る有様でその頃その気で住宅街を歩けば一筋に一二ケ所は下宿の張紙が見られる程でその町の風景が今でも懐かしく思い出される。これに比べれば今日の住宅難は益々深刻で家賃に敷金からむづかしい契約事項と諸条件の錯綜する中で転勤転宅する諸君には同情が湧く。

併し戦前は管轄内居住が規則で強要され今日の様な遠地通勤が認められなかったのは一寸窮屈であった。只住方式で緊急事態の人員確保はどんなものであろうかその後の公舎生活二十八年間は辞令の命ずるまゝに転宅又転宅で早い時は六ケ月、一ケ年と激しい異動に荷物を解く隙もなく転宅巧者の自慢話も出来る程になったものである。

当時署長公舎の転宅は一週間以上の余裕はなく辞令を受けた日から任地の責に就き夜は家内を督励して転宅準備を進め異動署長同志が時間を定めて同時出発の転出転入劇を繰り返したものである。この主役は常に本署の取締りさんであり妻であった。署員はこれ等を中心に実に手際よく且気持よく送り迎え以って吾がこと足れりとする気風があったことを今もしみじみ思い出す。そうした慌たゞしい転宅が戦前戦後を通じ十四回も繰り返えされたとは全く嘘の様な感じがする。

『大掃除御苦労ですむ署長かな』と云う句が句帳の端に残っている。こんな横着は私だけであったかも知れないがよき時代よき環境に恵まれた温い人のふれ合いは今尚忘れ難い。

人間一人安住の処を得るまでには数知れぬ人の厚意と幾多の曲折を経て定まるものだと今、走馬燈の如く去来する吾が転宅を回想し懐かしく且有難く感じている次第である。（終り）

再就職

（大阪防災管理株式会社社長）

赤井次郎（東住吉区）

誌友の諸兄ご健勝のことと存じます。

さて本年九月十五日『敬老の日』を前に厚生省は百才以上の高齢者を発表した。

それによると全国で五二七人（男九七人、女四三〇人）で前年より八名増えたとのこと、又平均寿命も女性がほぼ七六才（男性はそれよりも五年短い）とのこと、人生五〇年の戦前に比し誠に目出度いことであります

長寿の日本一は女性が一一才、男性が一〇九才でこれら長寿者の体験によると長生きの秘決は適当な仕事、規則正しい日課、腹八分目の食事、それにくよくよしないこと、誠に銘すべきであります。

さて定年五十五才まで天職を全うした私共にとって残されたこの十五年、二十年、三十年の余生は最も生き甲斐のある人生でなければならないと思います。この余生を有意義に幸福に過すために人によっては趣味を活かし優雅な余生を、又ゆうゆう自適と、或は前職の体験を活かして第二の職業において社会活動等その道はそれぞれ環境、健康等によって自由に選択ができる。

長い間一定の枠の中において勤務し又時には命がけで国民の生命、身体、財産を守るため生涯をかけての前職と比較するとき自由と生命の安全保障がある定年後は何よりの幸せであります。

私は永年培った体験、知識を第二の人生に活かされる職業、趣味のための余暇それに社会人としての奉仕活動の三部門が応分にできることを念願とし健康保持のためにも長寿者の体験から見ても自分に適当した職業を持つことは必要と痛感します。然るに最近の情勢は高令者の再就職に極めて厳しいものがあります。求人者は過去の経歴、肩書をもとに高給を要望するが企業側は先づ経営上その人材三十余年に亘る長い公務員生活は今から考えますと大変堅苦しい窮屈と言う一語に尽きるものであったと思われますが、その堅苦しい窮屈と思われた生活も多くの先輩同僚の御指導配慮と親身も及ばぬ公私に渉る御協力御支援に支えられて一挙手一投足総てを曝出しい様な生活の中で常に斗志をかき立てられ倦むことを知らず楽しく不知不識の間に長い年月を過すことが出来ました。考えて見ますと窮屈と楽しさと同居した様な説明のつかない生活でした。人それぞれの主観の相違で表現の方法も違うでしょうが窮屈の裏には明治生まれの律儀観から一にも責任、二にも責任でいつでも有事即応の態勢を崩してはならないと言う瞬間も余猶心の奥底に潜んでいたからでしょう兎にも角にも恵まれた三十年で今も事々に思い出して喜んでいます。

さて愈々転向期が迫って来ますとつつがなく仕事を全うしたいと言う願い早く緊張から開放されたい思いと又、一面同輩と直接の関係では別れなければならない淋しさ、明日への生活の不安、等々雑多な思いの中で、それでも家族共々、次の生活への夢を描きながら祈る様な気持で期の至るのを待ったものです。期至って辞令を受け、身に余る退職金も戴いてほっと一息、これからは少しでも気楽になんてことを考えましたがそれでも警鈴にビクビクした緊張感から脱け切れるまでには相当な期間を要しました。実際には三十年間培かわれた精神的肉体的慣習は簡単に抜け切れるものではありません。丁度偏食の習慣の直り難い様に…。

幸い先輩同僚の配慮によって適職を与えられてもついつい現職時代の我が儘が出て仕事に対する皎々の感情を働かして食い足りない意慾を露呈し不平不満をこぼし、これではいかんと反省させられることも度々でしたが今では漸く解脱しかけたところです。それでも勤めとなると現職時代に返って概ね定められた出勤時限には一分も遅れてはならないと言う鉄則の様なものが心中にあって早目の起床一服喫う、コーヒー、トースト、着替え、定時出勤と実直によくも飽きもしない十二個又は十三個入れ、それに蜂蜜を三百ミリリットル入れて、一週間位たって飲用します。（グラス半分程度毎日飲む）精力がつくことは受け合い、薬を飲むよりこれを飲んだほうが健康のためによいとのこと。駄弁謝し諸兄のご健勝を祈ります。（了）

近況

黒本勝夫（松原市）

自適出来るのは畢竟三十年生活への郷愁に甘んじ、その基盤の上にこそ安心立命の境地があるものと思われます。

在職中皆さんから教った鄙躅作りも勉強不足で良いものは出来ませんが少し位の花を家族と共に楽しむことは出来ます。時隅、絵筆の真似事などして見ますが勿論ものにはならないが暇つぶしにはなります。

只家の前の池では鮒を釣ることも出来るし、孫達に海老蟹を釣ってやることも出来て、態々遠い海まで釣りに出かけなくてもよいのにと言われることもあります。此の池に二、三年来、何処から始まったのか蓮の花が増殖して来て大きな葉を風に打返しながら池面の半ばを埋めて華麗な花を見せてくれます。ここ一、二年もすれば池面を覆い尽くして一層楽しませてくれることでしょう。手入することもいらなくて結構なことです。ここいらにはPCBも重金属も何の公害汚染も気にならず生物も植物も見事に繁殖が続けられています。野生の生植物の様に逞しくありたいと思います。皆さんに色々とご高配をいただき未だに現職の延長の様な気分でいます。

兎も角大した暇もなく平凡な生活ながら何かを楽しんでいることは確かです。

年一回の清風会は、歳も忘れ健康で歓談出来ることを何よりの楽しみに心待ちしています。

防炎寝具について

岩崎延雄（三島郡）

多少、商売気を出しても許されるなら……とは断わってあるので、みだしのことについて少し述べてみたい。

最近の火災統計を持ち出すまでもなく火事による焼死者の数は、年々増加し特に老年者の多いことも既承の通りで、昭和四十七年頃東京都内で寝たきり老人を対象として調査した結果六万人余りあることがわかり、実態調査を都の消防機関が実施した結果は、その殆んどの老人は、顔をそむけるような環境下に、火災危険一〇〇％の住居に疾病と戦いながら生活をしておられる現状は黙視できずと係官から直接耳にしたことがある。『あゝ、さようか。広い世の中だ、そんな老人も沢山ありますわいなー!!』ぐらいで済む筈の話も商売となれば聞き捨てにならぬと言うもの。

英国とオーストリア両国では、一九六一年から老人及び小児の寝衣が防炎規制されているが、我が国には未だ無い。そんな規制の如何を問わずその実情を知った都の為政者は、直ちに、「ふとん」の防炎性を強く要望された。

それ以後、防炎ふとんの生産熱が燎原の火のように繊維業界に吹きまくった。

それ以前に、燃えないふとん綿とて見物したときは、驚きの声をあげたのもつい昨日のように思えるが今の段階から見ると、極めて初歩的なものだったと思っている。

しかし、現在はどうだろうか?。炭火はするが全く燃え拡がらないのである。従って、煙草の火がふとんに落ちても火事にはなり得ないのである。即ち防炎素材なので。

少し専門的になるが、私らに馴染み深い消防法第8条の3を見ると次のように読める。

高層建築物もしくは、地下街又は劇場、キャバレー、旅館、病院、その他政令で定める防火対象物において使用するどん帖、カーテン、展示用合板その他これに類する物品で政令で定める基準以上の防炎性能を有するものでなければならない。

以上の法律によって消防機関は、日本防炎協会のラベルの貼付又は縫付によって、これを確認して火災予防に努力されているのが現状である。

この事を知った化繊メーカー関係者は、防炎の化学繊維の開発に、これの実用化に懸命の努力された結果価格の差こそあれ、各社独特の防炎素材を作りあげたその素材は、日常生活の中に型を変えて浸透している。例えば、防炎紙の障子、壁張り等である。

防炎カーテンは、一般家庭まで規制されていないが肌着―衣料、更に寝具になるのは当然と言えよう。これには極限がないように思える。

注「防炎」と、難燃とは同一に解してよい。

「家の親爺は、煙草が好きで寝ても床で吸っている。老い先短いのに、いまさら煙草は止めときー」とも言えないとすると常に監視するより手がないのではないか、家族の心労は容易でなかろう。燃えないふとんでもあれば、少々高価であっても買い求めると思うのも無理からぬ話である。

しかし、その綿が防炎してあっても、カバー、枕カバー、フォムマットレス、ベットスプレット、聞き馴れない品名が出たけれど、すべて防炎しておかないと安心して煙草も吸えないということになろう、従ってこれらまとめて、寝具等というので、試験の基準も繊維を取扱う業界代表が集まって考え出されたその試験は、カーテンと同じように一品ごとに試験したあと、ふとんとして完成したものの試験も行なう。

即ち、ふとんを二つ折にして、その中央部に煙草に点火した両切りピースを置く、そして三十分間後、取出して、まだ燃えている又は、消えていても、炭火長一〇〇ミリメートル以上あれば不合格となり、三枚の試供品も同じでなければならない。勿論それ以前に経口毒性、皮膚障害は、絶体にあってはならないし、煙によるガス毒性も重要な試験対象になるであろう。

しかし、ふとんとしての価値は、防炎性以上に必要なのは軽くて寝心地よいもの即ち汗を吸収する度合は多くなくてはならぬ。各社は、従来の木綿わた、化繊わた、防炎わた、その他の混合比率によって独自の味を出していると聞いている先々月、M、D各社が防炎寝具を大々的に売出し相当の効果を挙げていると聞いた。

或日、その売場を見たところ、可成りの人であったがその内の婦人に「防炎製品と知って求められたのですか。」と質問すると「イイエ、知らなかったワ……防炎って何んですか。」

私は、ふとんの端に縫付けてあるラベルを示して得得と説明したのは言うまでもない。

以上の会話も数年の間に笑い話しの種となることも近かろう。現に建築工事用シートは一〇〇％近く防炎化され、去る七月には、全国消防機関の手によって、対象物の実体調査が実施され、近くその統計も発表されよう、ことここに至って防炎性の寝具類が生れることも当然の成行なのだと思う。

子供等も成長し、それぞれ独立している。残った老夫婦の侘しい生活の中に、いつの日か防炎布団が敷かれるであろうか。

会の皆様の御多幸と健康を祈って擱筆します。（了）

詩

名簿

岩崎延雄（三島郡）

余り見もしなかった
会員名簿、丁寧に見る
と何と楽しいものよ…。
あの人、この人、先輩
お、まだ元気らしい。
幾才位かな、顔も思
い出される。
叱られた事、ほめられ
た事などがよみがえっ
ている想い出の数々…
たまらなく
うれしいもの!

孫

江口武雄（住吉区）

おじいちゃんと言っ
てくれる孫が可愛いい。
容子と言う四才の
女の子である。
白い歯、赤いほっぺた。
私の財布を持って来て
幾らかねだる。
何か買いたい素振り
をするが、一人で行こ
うとしない。
私の手を求めにくる
童子にかえって菓子屋
に行く。
自分の好きなものが
あれば「おばちゃんこ
れちょうだい。」と言う。
孫は、とっても
可愛いい、可愛いい。

福祉施設の昨今

中谷 俶昌（守口市）

私が消防局にお世話になったのは、昭和四十二年から同四十六年の満四ケ年である。

一般行政事務職から消防局に赴任した当時、全く規律正しい、きびきびした呼べば応える。しかも人間味豊かな職場であることに驚いたり、感謝したりで本当に有難かった。

在任中には、万国博消防対策、消防ヘリコプター購入、本部庁舎建替、アジア消防長会総会の開催、全国消防長会総会の開催等々、それはそれは、多忙な日々で、苦しいこともあったが楽しい思い出も多く、今日にあっても懐しく思い出している。

その後、下水道局二ケ年在局を経て、目下は社会福祉の総合施設、市立弘済院（所在地　吹田市古江台六丁目）に在勤している。

弘済院は、創立六十数年の歴史をもつ施設で、その敷地は二十万㎡（六万三千坪）で、在院者は一、一〇〇名で職員三五〇名と言う大世帯の生活である。

中でも老人福祉法に基づく老人収容の施設が大部分で、養護老人ホーム三五〇名、特別養護老人ホーム三〇〇名と老人を主体とする附属病院二〇〇床と外来患者一日四〇〇名前後を取扱っている。

この外に、児童福祉法に基づく養護児童ホーム一六〇名と、生活保護法による救護ホーム五十名、緊急救護ホーム五十名がある。

併設している施設としては、準看護学院五〇名と弘済小、中学校一二〇名（在籍）それに屋外リハビリテーションとして「太陽の広場」等がある。

かって、弘済院と言えば人里離れた山中に設立され社会生活からの落ご者を収容保護する施設であったことから、社会からは、収容者に対して、見下げた感覚をもっていたし、収容者自身も卑下し、萎縮していた従って、収容者の施設内での生活は、前述した精神的なものを除けば、結構な楽園であった。ただ自由に娑婆への出入が出来なかったことや、幾らかの労働がしいられた恨みはあったけれども、一方、職員は慈愛、博愛、恩恵といった観念をもつ善良な人達であったが収容者には、面倒をみてやっている。入所させてやっている等々と言った気持が強く働いていたことはいなめない。

ところが、昭和二十一年日本国憲法が制定され、我が国が民主主義国家を標ぼうしたことによって、国政は変り、在来の保護、救済を目的とした施設も、福祉の増進を図ることに改変され、老人、児童、母子、身体障害者(児)、精神薄弱者(児)等の福祉法が制定され、社会生活の中での欠損のある大部分の人達に、生活の保障と福祉サービスの手だてがなされるようになった。

弘済院に在所している人達は、その大多数が老人だけに、出生は明治、大正であり、戦前の教育をうけ、旧来の慣習を身につけているだけに、今日の世の中がこのように変ったのだと話をしても、理解は出来ず、ただただ「有難いことです。」とか「お上のお世話になっているのは誠に申訳ない。」と前置したあいさつの後に、可成り多くの老人は「子供さえいてくれたら、」とか「息子がもっとしっかりしていたら、」とか「娘が嫁に行ってしまっているから、」とかいった二の句が出てくる。

だが、施設内での生活は意外と明るく、伸び伸びとした、長閑な風景をかもし出している。

外出も届出さえすれば自由だし、趣味、娯楽等も各種のクラブを作って楽しんでいるし、心身障害老人のための機能回復訓練をほどこす施設をも設計、専門の職員が指導している。

ただ居室が、今日では四～五人同居となったことは老人にとって不満のあることだろうけれど、それに加えて、弘済院で働く職員も時間から時間まで働く専門職員であり、労働者意識をもつ勤め人である。

このことは、戦前のしてやっている意識とは違って従事しているといった立場に立脚した人達なのである。

今、このような時代の移り変りを経験し、更に将来を考えるとき、在院者の処遇、特に、プライバシーの尊重、個人の自由を考え施設の設備はどうあるべきか、在院者の自由的作業と、労働者である職員の業務の限界、職員の処遇、近隣社会と施設とのアプローチはどうあるべきか等、多くの研究課題が山積みされている。

このような背景の中で、私は今、みずから近代福祉、高福祉といわれる基礎作りに精励している。

読者の皆様、今日の福祉施設の現状をご理解頂き、今後の課題に対し、ご高見ご指導下さることをお願いしたい。

（了）

たわごと

和田準雄（奈良県）

関西圏の狭い地域のうちにいても、特別な関係を除いて、訪問来訪、不意の出合いなど、先輩同友との逢会の機会は意外に少なくなるのが宿命のようになって終い、在職中、折にふれて仕事を談じ、出相を論じ、喜憂を気さくに話し合ってきた頃を懐かしむ心底を今にしてしみじみ味わう自分になって終った。世俗を捨てた人のすがすがしさと全く反比例する、人間臭さが身についたと云うのであろうか。二十年三十年と生涯をかけてきた生活を離れたとき、ぽっくり独り歩きしている自分の蔭を見つめながら、そんな時々、やっぱり念頭から去らないのが別れて来た先輩であり同友であり、そしてその人達を通じて培土であった大阪消防である。

乳臭い感懐だが、第二の人生というものの厳しさが予想どおりであればある程、如上の感は深さを増すものようである。

しかし、人々も大阪消防も、日毎深刻化して行く社会様相に対応を強いられ、めまぐるしく変貌を遂げて行かねばならず、小さな厄介者の感懐など恐らく受け止めるどころでなかろう。さもあらばあれと、外面いとも勇ましい顔で街を歩き続けてはいる。

生きる修練など云うものは一生の大事であろう。なまじ悟り顔などする愚にはなずむまいと云いきかせてみる。それにしても、第二の人生という奴はどう見ても座り心地のよいものとは云えないようである。四十にして惑わずと支那の賢い人が云ったが、五十数才にしてホッと自分をふりかえる機会に恵まれた途端から私というケチな人間の迷いが初まり荒波の小舟よろしくというのが、大げさながら実相。それでいいのだ、それが如法だと云いきかせて、しかし大阪消防の顔に泥はぬるまいと、外づら勇ましく街を歩いて行こうと思う。

（了）

ヨーロッパ視察の想い出

水原常雄（吹田市）

思いがけずヨーロッパ旅行の機会を得て、喜びとともに少々の不安を抱き、毎日スーツケースを開けたり閉めたり、家族の遠足のようだ」とからかわれ、おまけに団長まで仰せつかり、ああ大変なことになったと思っているうちに出発の朝を迎えた。東京より一七時間三〇分、北極廻りでロンドン国際空港に到着。ジャンボジェット機の内では映画も上映され何んの不安も感じない雰囲気であったが、やっぱり宇宙を飛んでいると思うと緊張し、長時間椅子に座ったままなので重苦しくもあり、地上に降りたとたんに、やれやれと安堵する。バスでロンドン市に向う。外国映画や油絵によくみられる樹木が黄色く色づき、広々とした田園地帯の風景が続き、次第に「欧州に来たのだなあ」という実感がこみあげてくる。市街に近づくにつれ、街なみは電柱がないのでスカッとして見える。煉瓦造りの住宅が整然と並び、屋根という屋根には必らず二～三本の煙突が乱立している。石炭が家庭暖房の主役であった一〇数年前には、これらの煙突からモク、モクと出る黒煙で、四〇〇〇人以上の人々が気管支炎で死亡したという。ロンドンスモッグの源であったが、この煙突も今日では換気口として役目を果しているという。また市街のいたる所にみられる大理石や石造の建物などにも、スモッグにより薄汚れたものがみられ、如何に当時の大気汚染がひどかったかを物語っている。ロンドンは、アン王女の結婚式典を明日にひかえて、いつもは静かであろう、ハイドパークの森も旗や飾りつけや、テレビ中継の準備などで人々が右往左往し、あわただしく活気づいている。明日の視察の予定によってはパレードも見物できたらと望んでみたら、何んでもパレードの沿道は、夜半からの座席とりで旅行者のはいる余地は全く無いと聞かされ、とてもがっかりした。ちょうど騎馬衛兵の交替時だったのでこの儀式を見物する。赤いマントを着た一隊と、黒いマントを着た一隊とがそれぞれ頭に白い房のついたヘルメット帽をかぶり、黒い馬に乗って、カツカツと石畳に蹄の音を響かせ交替をする。お伽の国さながらで、しばしの間われなをわすれて、メルヘンの世界にひたった。ロンドンタ塔は二重の壁と深い壕にかこまれ、昔は要塞と宮殿とを兼ねたものであったという。城門の鉄扉などの造りは大阪城の大手門のようなところもある。薄暗い細い階段、武器、携門道具などを見るにつけ中世へ迷いこんでしまったような気持だ。地下室ではかの有名な王冠をみる、ダイヤで光り輝き、知らず知らず歩みを止めて見入ってしまう。かっては七つの海の王者として世界に君臨支配した大英帝国の永い歴史を思いうかべつつテームズ河畔に出る。テームズ河も蘇り魚も住みつくようになったと聞いていたが、水はあまり奇麗とは思えなかったが中世建築のロンドン塔と近代建築のタワー、ブリッジが、うまく調和し夕映の中に浮びあがった光影は美しくすばらしかった。レディング市の視察では、休日であったにもかかわらず終日、英国中央情報局のミス、ウオーカ女史のお世話になった。彼女は大変な日本通であり、何んとなく親しみを感じさせ、特に彼女の別れの言葉がとても印象的だった。皆さんと、このような下水処理場でなくて、もう少しロマンティックな場所でお別れしたかった」と。さき程彼女とかわした握手の温みを思いだしつつ、国や言語肌の色、風俗、習慣がちがっても人間のいだく感情は通じ合うものがあると思い嬉しくもあった。

フランス料理は世界一の味覚といわれているが、ホテルにおける食事は辛くて余りなじめなかったし、パリ到着の昼に物価凍結に対する抗議ゼネストに出くわし、街の食堂は一斉休業、おかげでホテルの食堂には長い長い行列ができていた。まるで日本の戦時中のときのようで寂しい気持になったが、誰れ一人不平をもらす人もなく、取りすましているのは単にパリの見えだけではないようにも思えた。

パリは市全体が観光に価しみるものすべてに心が引きつけられ、ただただ感嘆するばかりだ。よくパリは何処を歩いても絵になり、詩になるといわれている。これらが実感としてわかる。街の美観については規制基準もあるようだが、市民一人一人が積極的に協力してやっていると聞き、美に対する誇りと自負心を持つ国民性がよく理解され、たのもしく感じられた。セーヌ河に抱かれているシテ島は、パリの歴史発祥の地といわれ、ここに高く聳え建つノートルダム寺院は、セーヌ河に映えてひときわ美しくその荘厳な構え、ステンドグラスの輝きは神秘的な雰囲気を一層引き立てているようである。かってはこの聖堂で聖ルイ王や、ナポレオンも、しばし瞑想にふけったと聞くにつけ宗教力の偉大さと、歴史の古さを感じる。ローソクの灯りに薄暗く輝くキリスト像に敬けんな祈りを捧げるミサの厳さにふれ、思わず何かを祈なり、合掌し今後の旅の安全を祈念する。ルーブル美術館は全くすばらしい。元王室の宮殿であっただけに建物は広大で二〇万点に近い絵画、彫刻、工芸はギリシヤ、ローマ、エジプト、東洋にわたり、これらの傑作はルーブルを世界一のものにしている。二時間たらずの見学では非常に心残りでならない。京都の美術館で行列をして満員の中でみたミロのヴイナスや近く日本に来るというレオナルドダ、ヴインチのモナリザ等を昼食時で比較的人も少なかったので、心ゆくまで鑑賞出来たのはせめての幸いだった。館内では模写をしている人達も多くいた。いずれこの中からも世界的な画家が生れてくるのだろうと思うと、これを許しているフランスの寛大さをもまた見習うべきことだと思う。いずれにしてもこれだけの美術品を集め、幾多の歴史の変遷の中を護りぬいた、国民に尊敬の念をいだかざるを得なかった。ローマへの出発前に、パリ市よりバスで二〇分たらずのヴエルサイユ宮殿を見物する世界一豪華な宮殿とは聞いていたが、その豪華絢爛さ数世紀にわたる大王朝時代の支配者の偉大さを誇示しているようでもある。ガイドの説明によればルイ十四世は少年時代、地方貴族の反乱を体験し、これら貴族の勢力と野望を防ぐため、貴族には宮殿内に宿舎を与え、徳川時代の参勤交替にもにた制度をとりいれ、常に監視のもとに置いたという。さらに王権は神より授かったものであり、神の代行者という考えのもとに、その尊大さを示すためにも、家具、調度品の金銀細工、彫像、飾壁の刺しゅう織り、天井の絵画にいたるまで、その栄光をたたえたようである。ルイ十四世の二〇余年をかけた執念のようなものが感じられたが、しかし豪華、華麗さはあっても日本流の静寂な『侘び』『さび』的なものは何処にも見受けられなかったのは、国民性の相違だけだろうかと一寸考えさせられる。大理石を敷きつめた床を歩き、広々とした庭に出る。すりへった石畳は昔のままで、いまにも宮殿で見た絵の中の貴族が宮庭馬車に乗って出てくるような錯覚におちいり苦笑せずにはいられなかった。

イタリー人は身長もあまり高くなく、何処か日本人に似ているようで親しみを覚える。朝ホテルを出ると「ニッポン、センエン」（日本一、〇〇〇円）と観光スライドを売りにくるし、食事がすめば「ウマイカ、オイシカッタカ」と尋ねてくる。全く日本にいるようで観光なれしている証拠であるとあきれかえる。観光では世界のトップをゆくだけであってローマは遺跡の中にある町だ。いたる所に古代帝国華やかなりし頃の遺跡が散在し、全く見物するのも見まぐるしい程だ。特にフォーロ、ロマーノの展望は古代ローマの政治、宗教、商業の中心地といわれ、二、〇〇〇年前の「つわ者どもの夢の跡」を思わしめ、これらの一つ一つが当時の繁栄ぶりを物語っているようだ。また芸術的なものについては、ローマは破壊の中にある美であり、パリの完成された美に通じているように感じられる。コロッセオは今日でもローマ最大の建物といわれている。その建築技術は今日の技術にもおとらないように見受られ、当時の文化の水準に驚きの眼を見張らざるを得なかった。高さ五七m、五万人の観客を収容して、ある時は闘技場となり、ある時は処刑人を猛獣の餌食にしたともいわれ、血なま臭い歴史のあとが、煉瓦に薄黒くにじみこんでいる思いがする。ふとみるとその廃墟を一層引き立てているようにも思えてならなかった。ローマは、実に泉や広場に芸術的彫刻の多いところである。そしてそこは市民の憩いの場、恋の語いの場となり、映画のシーンにもよく取りあげられている。トレヴイの泉を見物し!!ローマの休日!!のシーンを思い出しながら、スペイン広場の階段を登ると、途中で可愛い赤ん坊をあやしながら、土産物の小細工をしている美人がいた。彼女があまりにもオードリーヘップバーンに似ていたので、思わずみとれてしまう。おまけに無心に遊ぶ子供の顔が、この夏生れた孫の「俊彦」によく似て見え、ちょっとばかり大阪が恋しくなった。映画!!終着駅!!でみたテルミニ駅に行く。ここでも近代的な美しい駅の横に紀元前の城壁が残されていた。敵の侵入を防ぐために造られた何の変哲もないこの城壁をも、遺跡として保存しているところにローマのよさがあるように思う。このような城壁を残したムッソリーニは、ローマの南方一二㎞の所に新ローマを建設した。建物はすべて、古代ローマの建物との調和が考慮されており、如何にローマ人が遺跡の保存に努力を払っているかが伺えて、日本の遺跡保存についても教えられる点が多々あるように思えてならなかった。

短い日数で、すばらいい所ばかりを見てまわり、まだまだ印象深く思い出として書きたいことはあるが、気ばかりあせって筆が進まず、書いたものもまとまりのないものになったが、全員が無事に帰国できたことに感謝し、また是非もう一度ヨーロッパを訪ずれたいと願いつつペンをおく。

健康

石川　繁美（茨木市）

はじめに

人間誰しも健康を願わない人はいないと思う。

停年を越えてそろそろ老境に入って来るようになると、その考え方は、一層深くなって来るのではあるまいか。

人生にとって健康程すばらしいものはない。

健康とは、何かなしに恵まれるものではなく、それなりの原因を作って始めてその結果が生れてくるものと考えられる。

さて、私は、健康に関する限り機会ある毎に、見たり、聞いたり可能なものについては出来る限りそれを実行することにしている。

当茨木市では、市教育委員会主催のもとに、昨年9月から11月までと今年6月から9月まで（第一期）、10月から12月まで（第二期開講中）老人大学が開講され、昨年と今年の第一期は止むを得ない要件のため一日休んだだけでその他は全部出席してそれぞれ証も頂いた。

講師は、病院長あり、大病院の栄養士あり、弁護士大学教授、新聞社論説委員、お寺の住職、花造りの先生、教育委員会関係者、公民館長と多彩であるが何れの先生方の講義も異口同音に期するところは、老人の精神と肉体両面に関する健康管理についての話で、大変有益であった。

そのうちのある大学教授の話を一つご紹介させてもらうと概ね次のように要約されると思う。

健康についての三本の柱

①栄養　②運動　③休養

①②③共に各自の体に見会ったバランスをよくわきまえて良いからといって決して無理をしてはいけない事は云うまでもない事である。

運動のうちで老人に一番適したことは歩くことである。それは大腿四頭筋が最先に衰弱してここから老化現象が始まるからで…

歩け歩け歩ける人は急いで急げる人は走って歩くことによって全身運動にもなり、四肢の関節の錆付きを防ぎ、現在から将来に向っての老化にブレーキをかける事は然程困難ではない。

又常に精神の安定に努めて老人の健康保持のため、十の戒として、

(1) 老令と変化は、当然であるから無駄な心配はしないこと。

(2) 自分の年令に相応した振舞をすること。

(3) 眼鏡や補聴器を使うことを恥しいと思わないこと。

(4) 永続的な事柄に興味を持つこと。

(5) 働き過ぎ、運動し過ぎ、遊び過ぎはしないこと。

(6) 太りすぎないこと。

(7) 自分の能力にあった運動をすること。

(8) 活動的な事からすぐ身を引かないようにして趣味を持つこと。

(9) 現在から将来に向って生きること。

(10) 他人のために少しでも役立つことをすること。

大体以上が先生の話を要約したものだが、三本の柱と若干重複したところもあると思われるがお許し願いたい。

なお、私は塩辛いものはなるべくとらないようにして、毎年10月から翌年3月頃までは、毎朝乾布マサツの励行と菜食に努めている。お陰様で血圧も正常値で健康そのものであるが、底なし物価の上昇のため年中絶えず金欠病でこれだけは特効薬も治療もない。

会員の皆さんも、すでにご承知のことで、大して益するところもないと思われるが、少しでも参考になればこの上もない幸せです。

会員の皆さんのご健康とご多幸をお祈りします。

川柳

中西　兼治郎（大正区）

バス停を工事がよそへ持って行き
サラリーへ内職プラスして平和
いたずらを笑顔で叱る目出度い日
鍵かける秘密を娘持っており
又病気出ましたんやと言う浮気

三木　務（阿倍野区）

珍客に妻のサインの手が動く
赤い羽根、警戒線のごと張られ
一服をつけたる時は釣れぬとき
叩売り「買うた」と言うはサクラなり
パチンコの玉が出て来る市場篭

江口　武雄（住吉区）

孫叱る言葉も親の顔を見て
七五三すでに見合いの素振りあり
披露宴でほめられた程に出世せず
お開きに座り直してまたも飲み
円満は嘘を上手に使いわけ

短歌

江口　武雄（住吉区）

物価高の政治への怒り語りあいて
小さき夜の会合終る
妻にかくれ煙草を吸いし灰皿が
きれいに磨かれもとのままあり
意欲あり清く生きるを信じつつ
更新嘱託の命をうけたり

数多き墓石の中の新らしき
一基が吾れなり朱の文字がうく
いくばくの余生と思え孫の手の
温みつつむを幸とせん

三木　務（阿倍野区）

母逝きし頃は戦場にありし吾れ
三十年にして母の年となりぬ
戦友と逢う日を終戦の日と決めて
二十回を迎う二人又逝く
教室の窓をのぞけば黒板に
新任教師の名の書いており
同僚の叙勲に招れし吾は捕虜のとき
勲章はみな強奪されき
園芸に趣味を抱いて二十年
ぼん栽の鉢百余となれり

俳句

三木　務（阿倍野区）

初暦めくらず三日過ぎにけり
打出しは吾が里の寺島遍路
万緑やダム満水の水の蒼
藁屋根に竹落葉して古戦場
山裾の分校場の柿赤し

江口　武雄（住吉区）

銭湯に酔いて彼岸の月を浴ぶ
一時のしたしみやすき焚火かな
梅雨暗き土間溶接の火花散る
白魚に一句ささげて膳につき
塔見えて石段長し落葉舞う

新会員（S49.8.1～11.30）

（敬称略）

氏名	現住所（電話）	退職年月
中野　栄	(636) 北葛城郡河合町泉台1－297 074556－6141	予防課 S 34. 2
柳町陸男	(544) 生野区中川西2－8の10 06（712）1745	機械課 S 48. 5
田中　茂	(536) 城東区関目町4－22 06（932）3320	総務課 S 49. 4
玉置源三	(518-04) 名張市柳原町3325の1 05956 (3) 1296	東成 S 48. 12
斉藤武男	(532) 淀川区塚本1－9の4 06（302）2904	西淀川 S 49. 2

会員名簿訂正

昭和四十九年度の会員名簿で次の方々の訂正、町名変更、移転等がありましたのでお知らせします。

鶴見区
名林昌太郎を名村昌太郎

平野区
小堀兼行の退職時の所属阿倍野区の区をとる。

大正区
中村重行の住所鶴町1を鶴町4

中西兼治郎の職業前田製菓○六（七七八）七二二一

住之江区
渡辺甚三郎の住所一五の三を一三の五

山口和夫を住吉区へ

東淀川区
原広十の職業天満製鈑㈱○六（三五一）八九五一をとる。

淀川区
川村昇の職業団地サービス西部支部○六（九六九）一一四

奥山茂樹の住所田井中二－一八

東大阪市
田中金四郎の住所西小坂を西小阪

奈良県
長谷川福政の職業（電話番号）○六（二五一）三四○一

葛本正一の住所680八尾市荘内町一－一の五に変更

木田清二郎の職業東洋警備保障㈱○六（二五一）○一一二

熊本県
小山寅平の住所欄小山末男方をとる。

新会員欄
大浜佑一の住所（電話）○六（九六八）六○一六

岩崎正一の住所矢田部町中通一－五

上久保豊太郎の職業読売テレビ㈱○六（三五二）二二一一

田三郎を谷田二郎

ご寄付

本会発展のため、次の方々からご寄付を賜わりました。厚くお礼申しあげますとともにご報告します。

叙勲記念として

○豊田　武氏　金一〇、〇〇〇円

○岡本繁太郎氏　金一〇、〇〇〇円

○櫛崎　重一氏　金一〇、〇〇〇円

○森本　末吉氏　金一〇、〇〇〇円

第八回総会開催にあたり

○椿井　春重氏　金一〇、〇〇〇円

○工藤　司氏　金五、〇〇〇円

○浜岡　眞浄氏　金一、〇〇〇円

○赤井　次郎氏　ビール二ダース

その他として

○西支部　金二二、〇五三円

原稿募集

本紙「清風」にご投稿下さいました方々にお礼を申上げます。

随想、思い出、苦情、相談、俳句等なんでも結構ですからどしどしご投稿下さいますようご協力をお願いします。

喜岡政義の職業オー・エス・シー・ビル警備保障㈱○六（三六四）二七五一～六

永松辰夫の住所欄市営を市住

桝本奈良治の職業東京田辺製薬㈱大阪支店○六（二〇三）三〇五一

泉大津市
村野久夫の住所池園町九の三七　○七二五（二一）七四〇〇

岡山県
八木繁の住所　岡山市葵町一－三○の一

かなしみ

このたび次の方々がご逝去されましたのでお知らせします。

なおご遺族には本会から哀悼の意を表しました。

真辺　恵氏　昭和49年3月12日死亡

斉藤　勉氏　昭和49年4月15日死亡

青山　武雄氏　昭和49年5月15日死亡

桑原　幸一氏　昭和49年6月2日死亡

中瀬　吟三氏　昭和49年7月12日死亡

奥田仙太郎氏　昭和49年8月14日死亡

並河　末一氏　昭和49年9月10日死亡

吉川丈太郎氏　昭和49年11月12日死亡

保安警備員募集!!
勤務先　大阪市内
大阪防災管理株式会社
取締役社長　赤井次郎
〒550 大阪市西区阿波堀通一丁目三三番地
電話（〇六）五四一－四三〇一
（〇六）五三八－三八六一
（地下鉄　四ツ橋線　本町駅下車　信濃橋交叉点南）
清風会の会員を歓迎します。

印刷は
福島区上福島北四丁目六十八
中村正雄
電話（〇六）四五八－二五一二

紳士服の御用命は八木へ
株式会社　八木洋服店
TEL 06 六三二－二九六一
日本橋筋四バス停西入南側